

B 教育活動の連続性の確保

下野市では、平成20年度から児童生徒同士の様々な交流活動を実施してきました。異年齢交流は、児童生徒の思いやりやコミュニケーション能力を育んだり、リーダーシップを育成したりすることにつながります。また、小学校高学年児童にとって、中学生との交流や授業体験は、進学への不安を軽減し、あこがれの気持ちをもつことにつながっています。

これまで積み重ねてきた成果をもとに、教職員間で更なる連携・協働体制を築きながら、各学校の特色を生かした取組を進めましょう。

具体的な取組（例）

○ 小中での交流活動

- ・子ども未来プロジェクトによる取組を行う。 ※注

例：テレビ会議システム等を使った交流

あいさつ運動

児童生徒会活動での交流

- ・小学生が中学校での発表会（合唱等）に参加する。
- ・地域清掃を行う。
- ・小学生高学年が中学校の部活動に参加する。
- ・学校行事に参加する。
- ・読み聞かせ活動を行う。

例：中学生が小学生に読み聞かせを行う。

- ・作品交流を行う。

例：中学校区内でそれぞれの作品（図工、美術、書道等）を掲示し合う。公民館での作品展示も実施する。



※注 子ども未来プロジェクト

下野市内小・中学校の交流を通して、自らの手でよりよい学校づくり、よりよい地域づくりのため、主体的に考え、行動できる子どもの育成を目的としています。

「いじめをしない・させない・見逃さない」など、正しい判断のできる子どもを育てます。



C 教職員間の連携・協働

小・中学校の教員が互いの学校の教育を理解するためには、小学校教員は自らが指導する内容が中学校における学習にどのようにつながっていくかを理解しながら指導し、中学校教員は小学校における学習の到達度を把握した上で各分野の指導をすることが必要です。教員同士が連携して授業改善に取り組み、多くの子どもたちにとって見通しと安心感のある授業を実践しましょう。

具体的な取組（例）

○相互乗り入れ授業

- ・学習指導や児童生徒指導についての共通理解を図り、協力体制を築く。

○児童生徒の相互理解

- ・情報の引継ぎを通して、児童生徒の理解や多様な支援や配慮の在り方について検討する。
- ・問題行動の早期発見・早期解消へつながる取組について共通理解をする。

○特別支援教育（学習環境への配慮）

- ・安心して過ごしやすい学習環境について共通理解を図る。
例：通常の学級におけるユニバーサルデザインの授業、集団の中での個別の指導
- ・個別の教育支援計画、個別の指導計画の内容や方法を工夫する。

○授業改善への取組

- ・授業での指導方法について情報交換をし、効果のある指導方法を継続していくための取組について話し合う。
例：ペア学習、グループ学習の進め方、机の配置、「話型」指導、発表の仕方、聴き方、思考ツールの活用、ノート指導の方法、「振り返り」の仕方

○家庭学習

- ・家庭学習の目安（小・中学校での指導の違い）や「自主学習ノート」、「家庭学習ノート」の指導について共通理解を図る。



○学習及び生活規律

- ・重点を図るべき指導についての共通理解を図る。
例：校則、生活のきまり、清掃活動への取り組み方、チャイム着席、教室環境



○全体計画や年間指導計画の活用

- ・全体計画や年間指導計画をもとに、教科書による指導内容等についてのつながりや違いを確認する。
- ・単元と単元の関係を系統図として整理し、複数の学年で繰り返し指導する内容や学年間の結び付きを確認する。

○各種学力調査結果との関連

- ・重点的に指導すべき単元等について確認し、学習内容や指導方法、配当時数等について検討を行う。

○評価に関すること

- ・小・中学校における評価等の実施方法について知る。
- ・問題の分量や解答形式の違い等を共有し、中学校への円滑な移行が図れるようにする。
- ・小学校終了段階での到達目標について共通理解を図る。
- ・英語のパフォーマンステストについて、評価の基準を小・中学校で一緒に検討する。

※ 様々な取組で、P(Plan)-D(Do)-C(Check)-A(Action)サイクルに基づき、改善への意識をもつことが大切です。

例：教科等を横断した学習指導に関する研究

〇〇中学校区の△△部会では、コミュニケーション能力を育成するため、児童生徒の実態をもとに「聞き方・話し方のステップ」を作成しました。



聞き方・話し方のステップ（小5・小6・中1用）

ステップ	聞き方	話し方
4	話している人の考えを聞いて、自分の考えを広げる。	自分の考えについて、根拠や理由が伝わるように話す。
3	話している人の考えと自分の考えを比べながら聞いて、感想や意見をもつ。	友達の考えと自分の考えを比べながら話す。
2	質問ができるよう、話の中心に気を付けて聞く。	話す事がらを、順序立てて、伝えたいことの中心が分かるように話す。
1	話している人の方を向いて相づちをするなど、反応をしながら聞く。	聞いている人の方を向いて、全員に聞こえる声ではっきりと話す。

P

D

中学校区内の小・中学校で共通に取り組んでいきます。

- 第一段階として、国語と算数（数学）の授業で、子どもたちへの意識付けを図る。
- 小・中学校の先生方が互いに授業参観し、授業後に「話し方」に焦点を絞った授業研究会等を行う。

C

- 授業研究会での成果や課題をもとに、見直しが必要な点について話し合い、改善策等を探る。
- 効果のあった指導方法などを共有する。

A

- 改善策をもとに、新たな取組等ができるよう次年度に向けた組織づくりなどを行う。
- 成果が確認できない場合は、方法を変えるなどして、次年度引き続き取り組めるようにする。

※ C・A（確認・改善）を充実させることが、PDCAサイクルを効果的に回すポイントになります。



実践例：中学生による小学校での読み聞かせ活動（国分寺中学校区）



